

nasweel

# 英雄伝説Ⅳ

もうひとつの英雄たちの物語 ～白き魔女～



リファレンスブック





# もうひとつの英雄たちの物語…

「英雄伝説Ⅲ」と名のつくこの物語は、前2作とはまったく話のつながりがない。けれども、英雄たちの物語というのは、何もセリオスやアトラスたちにのみ当てはまるものではない。どの時代にも、英雄は存在していたはずだ。

ところで、前2作は、王家の人々があたかも当然のごとく英雄となっていくお話だった。最初から富と名声を持ち、それをひた隠しにしながら旅を続けていったのだ。けれども、この「Ⅲ」は、普通の村で暮らしていた少年、少女が、いかにして英雄になっていくかを綴ったもの。同じ「英雄伝説」でも、まったく違った展開を見せることだろ

う。そこで、ここに「Ⅲ」のプロローグを紹介しておくことにする。

この物語は、ガガーブの先に世界はなく大蛇の背骨の果てにも世界はない、と信じられていた時代のお話である。

そのころ、この地方はティラスイールと呼ばれ、フォルティア、メナート、チャノム、アンビッシュ、ウドル、オールドス、フエンテ、ギドナという8つの国があった。いくつかの国は問題を抱えていたが、人々は各々の地で繁栄を築いていた。神話、英雄伝、寓話など、人の暮らしがあれば、時代の裏にかすみそうな伝承はいくつもある。

20年前に諸国を巡礼したと伝えられ

る、白き魔女の物語もそんな伝承のひとつだったのだ……。

フォルティア王国の小さな村、ラグピックには、14歳になったら、聖地オールドスに向けて5つの祠を巡る旅に出る、という風習がある。今年もふたりの子供がその年齢になり、巡礼の旅に出ることになった。心優しいジュリオと、おてんば少女クリスティーナだ。

ふたりは各地に散らばる祠を巡り、魔法の鏡が写し出す不思議な光景を目にするために旅立つ。その道が、かつて諸国を放浪した“白き魔女”と同じもののだとも知らずに……。今、かつてない災いが訪れようとしている！





# メインキャラクター紹介



## ジュリオ

本編の主人公。14歳の男の子で、フォルティア王国のラグビック村出身。少々内気なところが見られるが、真面目で芯は強い。いつもクリスにやり込められているようだが、肝心なところでは自分の意見を主張する勇気も持っている。ところが、クリスの気持ちを察してやれない鈍い一面もあり、それがクリスを怒らせる原因になっているのかも!? 物語中も、カッコよかったり、マヌケだったり、なんともつかみどころのない性格だ。ラグビック村の成人の儀式として、幼なじみのクリスと一緒に、オールドス大聖堂を目指して巡礼の旅に出る。この少年が、いかにして英雄になっていくのだろうか。



## クリスチーナ

本編のヒロイン。女の子で15歳。通称クリス。ジュリオと同様、ラグビック村の出身だ。本来ならば14歳で巡礼の旅に出るのだが、去年はちょっとした理由のため巡礼に出れず、今年、ジュリオと共に旅立つことになった。明るく、おおらかで、人見知りをしない性格。ジュリオよりも年上なので、彼に関しては保護者的な感情が強い。自分がないと、ジュリオは何もできないと思っているほどだ。ときたま、ジュリオを自分の子供のように扱っている一面も見られる。腕力はないが、回復、援護系の魔法を使うことができるので、旅先ではジュリオと持ちつ持たれつの関係になりそう。迷コンビと言ったほうがいいかな。





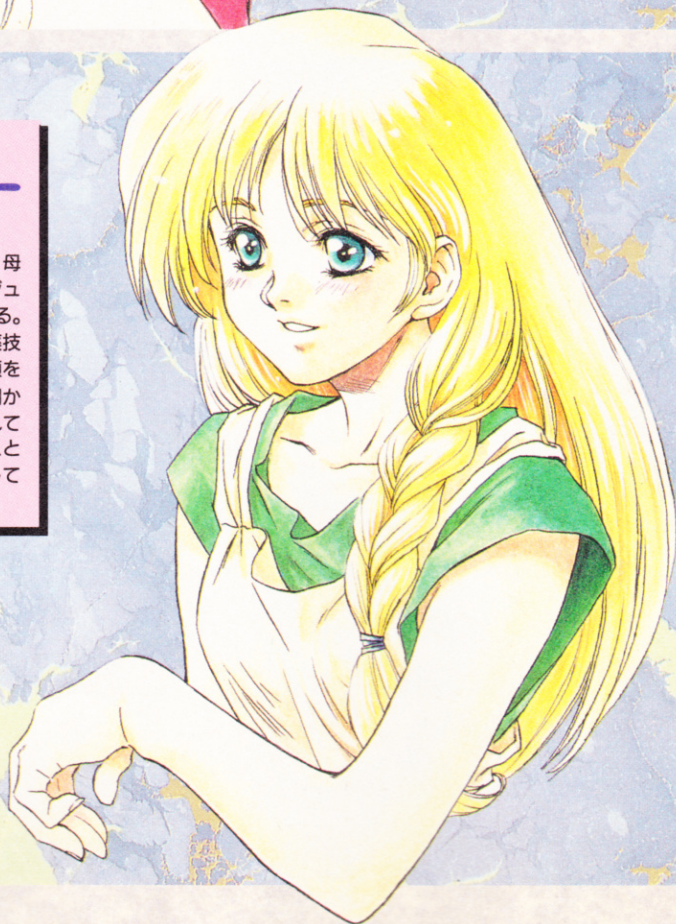
## ローディー

メナート国のネガル島出身の男で20歳だ。彼は幼いころに、海獣ガルガに両親の命を奪われた。そして、その復讐のために強くなろうと、村を飛び出して剣士となったのである。ジュリオたちとは旅先で出会い、共に冒険することになる。「こいつだけは俺にまかせろ」が口癖。尊敬する人はフォルティア国の宮廷剣士デュルゼル。祖父のケ빈は、今もネガル島のテグラに住み、泥炭で育てる貴重な宝石、“真紅の炎”を養殖している。



## フィリー

女性、14歳。フエンテ国の町はすれに、母のリズとふたりで暮らしている。彼女もジュリオたちと出会い、共に旅することになる。有名な調薬師である母から受け継いだ調薬技術は、フエンテ中の人々から多くの信頼を受けている。仲よしは小熊のバンバン。明るく、礼儀正しい性格で、誰からも好かれている。しかし、ジュリオを巡って、クリスとひと騒動ありそうな感じも……。プレーしてからのお楽しみということ。

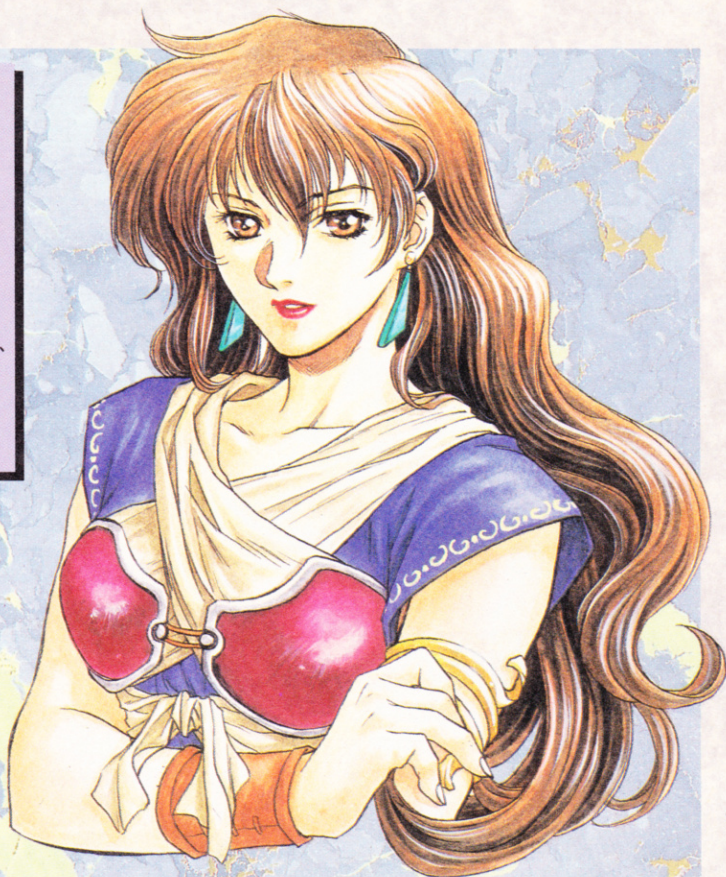






## シャーラ

出身地は、フエンテ国のどこかということしかわかっていない。22歳の女性。外見は美しく妖艶さが漂っているが、実は街道を股にかける大泥棒！ とはいえ、いまだ盗みに成功したことはないのであった。グースと組んでティラスイールを荒らしまわっているため、手配書だけはしっかりと出回っている。変装が得意で、弓の達人だ。ドジな相棒グースがいつも失敗ばかりするので、「コンビ解消！」が口癖になっている。

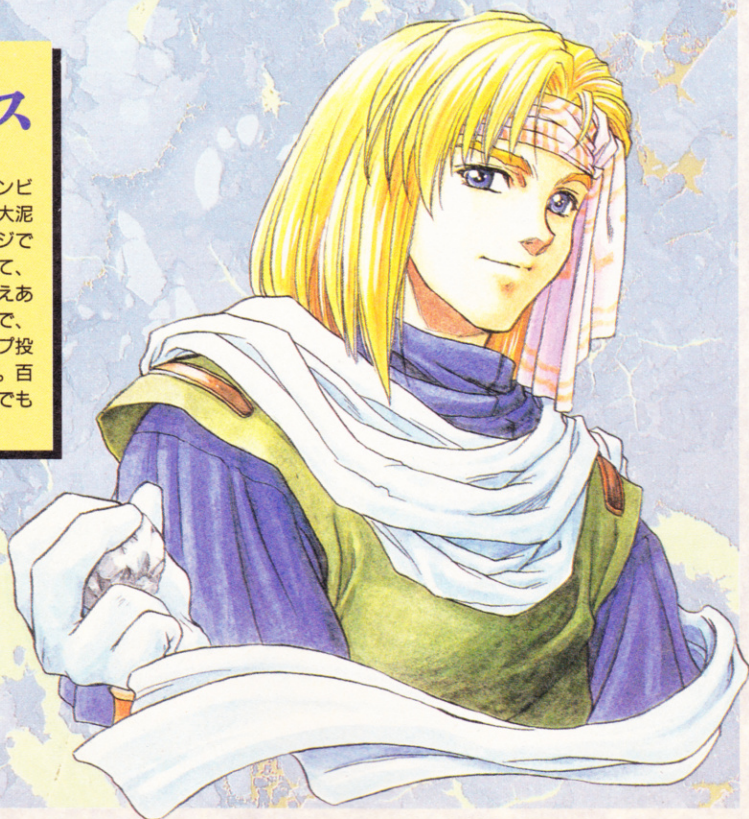


5



## グース

男、23歳。出身地は不明。シャーラとコンビを組み、ティラスイールを荒らしまわる大泥棒だ。究極の美男子なのだが、天然のドジでもある。そのためにいつも失敗ばかりして、いまだ盗みに成功したことはない。暇さえあれば若い娘に声をかけており、口が達者で、優位に立てばとことん強い。特技はロープ投げ、小石投げなど、物を投げることに全般。百発百中の腕前だ。また、小太刀の使い手でもある。本人は隠しているが料理も得意。





# もちろんシステムも新しい!

ストーリー的には、前作と関連性がなくなった『英雄伝説Ⅲ』。さらに、それだけではなく、ゲームシステムにもかなり手加えられ、より遊びやすく、迫力のあるものに仕上がったのだ。というわけで、『Ⅲ』でのシステムの特徴をひとつひとつ取り上げて、ここで解説しよう。細かいところにも配慮が行き届いた、日本ファルコムならではのシステムだぞ。読んで感心するべし。

## 画面レイアウト

まずは見た目、画面レイアウトだ。これの良し悪しで、ゲームがおもしろくもつまらなくもなる。ユーザーが第一印象として感じるのも、やはりこの画面レイアウトではなかるうか。

さて、『英雄伝説Ⅲ』はというと、これがかなり変更された。前作では画面の3分の1を占めていたステータス表示部分が、『Ⅲ』では画面下に小さく配置されている。その分、メイン画面がドーンと大きくなったのだ。画面右の部分にも必要最低限のデータのみを表示し、必要なデータはメニューで呼び出す形となった。



■これは前作の画面。マップなどが表示されるメイン画面が、全体の半分ほど。狭いよね。



■これが『Ⅲ』の画面。かなりレイアウトが変更されて、パッと見ただけで迫力が感じられる。

## 高さの概念

こういったフィールドタイプのロールプレイングでは、ほとんど採用されていなかった高さの概念が取り入れられた。平地や、ちょっと小高くなった丘、登りきれない崖などが、ありとあらゆる場面に当然のように出てくる。もちろん高さがあるということは海にも深さがある。海に入ると画面上のキャラが頭しか出ないこともあるぞ。

高さを表現するということはプログラミング的にも難しく、かなり高度な技術が必要とされる。だが、それを平然とやってのけてしまうのがファルコムのすこさでもある。



■このように、フィールドマップにはしっかりと高さがつけられている。リアルだね。

## 戦闘システム

戦闘シーンは、完全なオートバトルになった。といっても、攻撃、魔法、防御など、行動パターンを組んでおくことができるので、プレイヤーの意向もきちんと反映される。あとは、立てた作戦どおりにキャラが動いてくれるのを祈るのみってやつだね。

また、戦闘時にも高さが重要な意味を持つので、地形にも気を配ろう。



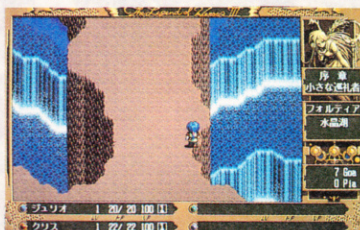
## 演出

ファルコムのゲームは、映画的な演出効果で有名だけど、今回もさらに気合が入っている。メッセージのセリフもそうだが、目で見える演出では右に出るものはいないって感じた。画面上のキャラがところ狭しと動き回り、様々なアクションを見せてくれる。

たとえば、クリスが船のマストに上って、洗濯モノを取り込むシーン。一所懸命マストをよじ上り、ロープに捕まって滑り下りながら、干してある洗濯モノを見事に取り込む。落ちるんじゃないかと、ハラハラしながら見てしまうぞ。こんなようなシーンが随所に盛り込まれているのでお楽しみに!



■船乗りがスルスルと洗濯モノを干すシーン。これを真似して、後でクリスが取り込むのだ。



■単なる背景の滝だけど、キレイにアニメーションして流れているのだ。しばし見学。



■言葉の演出も冴えたもの。クリスの叔父であるハックが、借金とりから逃げるシーンだ。



# 序章 誌上体験

## 旅立ち

発売の待ち遠しい『英雄伝説Ⅲ』だが、その序章を、ひと足はやく誌上で体験してみよう。雰囲気、伝わるかな？

このゲームの主人公、ジュリオとクリスのふたりは、村の習わしにしたがって旅に出ることになった。世界中に散らばる5つのシャリネ(祠)をまわりながら、聖地オルドスを目指すという、長い長い巡礼の旅である。

旅の間にふたりが頼れるのは、巡礼者の証しである銀の短剣のみ。きつとつらいことだってあるだろうに、当のふたりはすましたもので、いつものようにジャレあつてる。大丈夫かなあ？

出発前にちょっとゴタゴタもあったけど、村のみんなにあいさつも済ましたし……。さあ、いよいよ出発だ！



◆いよいよシャリネに入る。ここは、水を治めるディーネだ。この書庫には、伝説にまつわる文献が残されているので、読んでおこう。



## ディーネにて

出発の地であるラグピックの村から、水のシャリネがあるディーネまではそれほど遠くない。ところが途中で、橋が落ちてしまって渡れないところがあ

った。仕方がないので回り道だ。ついでに寄り道までしちゃったりして。

ディーネに着いたら賢者の話を聞いて、さっそくシャリネへ。なんでも、魔法の鏡に素晴らしい景色が映し出されるとか……。おや？ 話が違うぞ。



◆この巡礼では、5つのシャリネを巡って聖地オルドスを目指す。その旅の意味を知ること、大切な目的だ。



◆いよいよ巡礼の旅に出るジュリオとクリス。けっこうノンビリかまえてるようだけど、大丈夫なの？

つづく ▶▶▶



## ✧ ラグーナで

ディーネを離れ、次のシャリネへ向かうためにラグーナを目指すジュリオとクリス。巡礼が終わるまでは村へ帰れないのだから、何があろうと先へ進むしかない。とりあえずはメナートの国へ渡るため、ラグーナへ行って船に乗り込むとしようか。

ラグーナに着くと、ちょうどメナートへ向けて出航する船があった。ラッキー！ 巡礼者は船賃もタダらしいし、この「鷹の爪」号に乗せてもらおうかな。え！ タダの代わりに働くの？

さてさて、出航までにはまだ時間があるし、ちょっとこの街を散歩してみるといいだろう。ジュリオのことを知ってるお姉さんもいるし、ハックおじさんという、ちょっと(?)変わった知り合いもいるぞ。巡礼者は珍しいからか、街のみんなはとても親切だし、話を聞かてらウロウロしてみよう。

おや？ いつの間にかクリスがいなくなっちゃったぞ。もうすぐ船が出て一のに、どこ行っちゃったんだ？



▲ラグーナへ向かう途中で、思わず海水浴を楽しむジュリオたち……。てのは冗談だが、海が、ちゃんと沖へ行くほど深くなっているのには驚き！



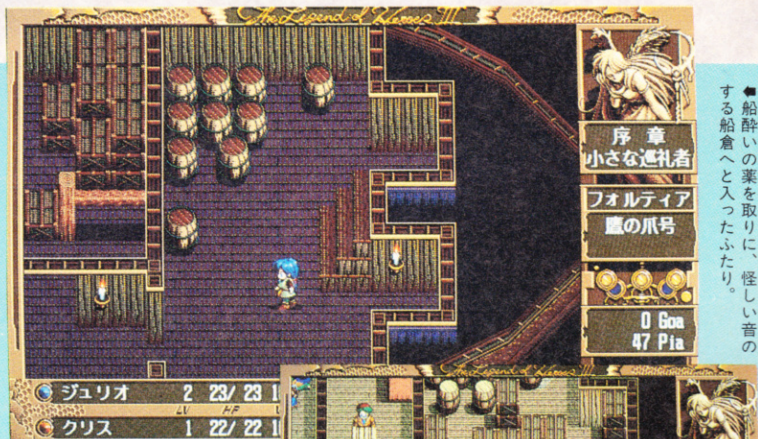
▲港町ラグーナにて。それにしても、ジュリオはどこでも迷子になるんだね。だが、今回はクリスのほうがいなくなっちゃった。困ったよ〜ん。

## ✧ 鷹の爪号

メナート国のニリーへ向けて出航した「鷹の爪」号。それに乗り込んだジュリオとクリスは、みんなが感心するくらいよく働いた。まあ、クリスの料理は別として……。ね。それに船長をはじめ、船に乗ってる人はみんないい人ばかりだ。楽しい航海になりそうだな、

と思ったのも束の間。なんと船の中で盗難事件が起きてしまったのだ。

船長たちは忙しそうだし、ここはジュリオ&クリスの出番だね。張り切って捜査しよう。怪しいのは、物音のする船倉と、船に乗ってから一度も顔を見せないふたり組かな？ それにもうひとり、な〜んとなく怪しい人が……。そんなこんなで、船はニリーへ。

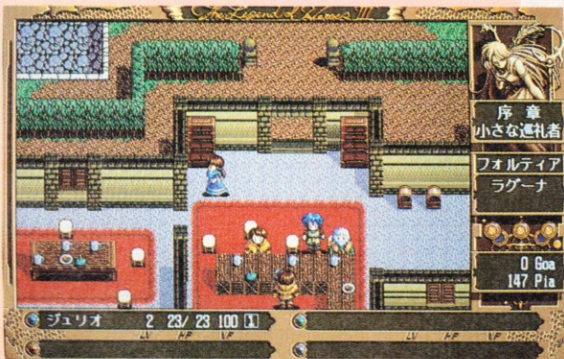


▲船酔いの薬を取りに、怪しい音のする船倉へと入ったふたり。

▲薬を取って上へ戻っていると、船員さんが倒れている。何が起ったんだ？



▲ジュリオたちの活躍で、船は無事メナートのニリーに着いた。みんなが別れを惜しんでくれる。







## メナート国

すったもんだのあげく、船はなんとか無事ニーリへ到着。ふたりともいい経験をしたし、ま、よかったよかった。

さて、ここメナートの国は、最近不作続きで食料が乏しいらしい。この不作は「白き魔女」の呪いだというもっぱらのウワサだが、ほんとなのかなあ？それに「白き魔女」って、いったいどんな人だろう。興味が湧いてくるよね。それにしても、ニーリの人たちのなんて親切なこと……。ちょっぴり感動。

とはいえ、あまり長居するわけにもいかない。地のシャリネがあるテグラへ行くには、アルデからまた船に乗るしかない。てなわけでアルデへ急ごう。

## アルデにて

道なりに歩けば、ニーリからアルデまでそう距離はない。まあ、寄り道もいいけど、ほどほどに。アルデに行けばテグラまで船ですぐなんだから……。

と思いきや、アルデでも困ったことがおきていた。なんと港をアザラシの群れが占領していて、危なくて船が出せないのだそう。おまけに、チッタの村へと続く街道まで、崖崩れで通れなくなっているらしい。まったく、悪いことって重なるもんだね。

けれども、こんなところで指をくわえて見ているわけにもいけないから、とりあえず街の人に話を聞いて回ろう。

まだまだ旅は始まったばかり。いたい、ふたりはこれからどうなるの？

◆◆◆フォルティアの国を離れ、メナートへ。どうやらあまり豊かな国じゃないようだけど、人々はとても親切だ。それにしても、これからどうしよう？

◆ イノシシの干し肉を買いに来た人々。まさかラグビツクでジュリオがとったイノシシでは……、なんてね。



◆ アザラシのおかげで船が出ない。と言うことはテグラのシャリネへいけないの!? どうしよう？

詳しくは次号でね！



# ▶日本ファルコムグッズコーナー◀

というわけで、『英雄伝説Ⅲ』の魅力はわかってもらえたかな? この続きは、次号から始まるゲーム攻略のコーナーで解説していくからね。

さて、ゲームの話ばかりしても息が詰まってしまうので、ちょっと違うと

ころに目を向けてみよう。そう、日本ファルコムと言えば、関連グッズも山のように出ているのだ。そこでここでは、最近発売されたものをピックアップして紹介してみようと思う。

ここに掲載しているものの他にも、

ディスクケースや関連書籍、CDなどなど、数えきれないほどの商品が用意されている。気になる人は、代々木のファルコムショップへ急ぐべし!

遠方の人も、ソフトを購入すれば通信販売の案内が入っているよ。

## フィギュア



↑1/8メイル

5200円

「ぼっふるメイル」の主人公、賞金稼ぎのメイルだ。大きな剣を片手に持ち、そのたくましさがよく表現されている。といっても若干17歳の女の子。かわいらしさのほうで全体的に押し出されているよね。今にも動き出しそうな躍動感があるぞ。でも、どうせだったらタットやガウもフィギュア化して、3体並べて飾っておきたいなあ。そのほうが、珍トリオを演出できていいと思うんだけど……。って、そんなことないかな?

※価格はすべて税別です。

➡1/8ドーラ・ドロン

6800円

言わずと知れたドーラ・ドロン。『ブランドッシュ』シリーズで、アレスを追い回していた天然大マヌケ女だ。美人で色気もあって文句のつけどころがないほどなのに、あのマヌケぶりのほうが脳裏に焼きついてちゃってるんだよね。口を開かなきゃいい女ってことで、フィギュアとして飾っておくのが一番いいのかも!? よくできているのでファンならば買うべし。



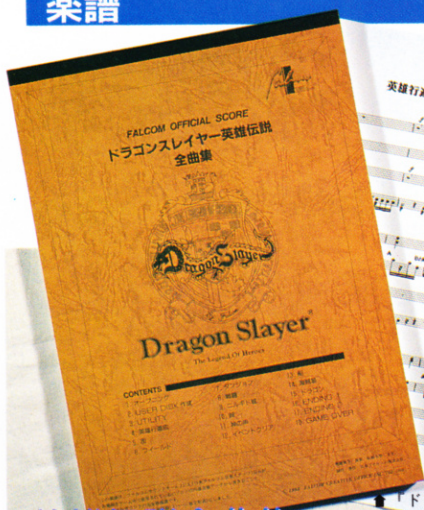
◀1/8リリア

5500円

パソコンゲーマーなら知らぬ者はいないであろう、「イース」シリーズのリリア。以前にもフィギュアが発売されているんだけど、これは別のバージョンなのだ。手に鳩なんか止めちゃって、まさに平和の象徴って感じ。部屋のインテリアにもなりそうだ。日本ファルコムのゲームの初代ヒロインってことで、フリークの人にはコレクションに加えておこう。



## 楽譜



**英雄伝説全曲集**  
1800円



「ドラゴンスレイヤー英雄伝説」の全曲楽譜集。ゲームミュージックが好きな人は、必須の一冊だ。



**イースII全曲集**  
1800円



こちらは「イースII」の全曲楽譜集。コンピューターミュージックの入門にも持ってこいだね。

## ポストカード



**ポストカードセット**  
1800円

ゲームのイラストを印刷した絵ハガキ。紹介してあるのはPCエンジン版『風の伝説XANADU』のもの。他にもいろいろあるぞ。



**ポストカード**  
各150円



## その他

**ブランチッシュ2ジグソーパズル**  
3800円



**ガウビーチボール**1300円

ちょっと季節が違うけど、来年の夏のために買っておくとよい。愛敬のある顔だね。

1000ピースのジグソーパズル。完成すると結構な大きさになる。パネルも用意せよ。

## このページのグッズをプレゼント!

前ページのフィギュアを各3名様に、そのほかのグッズを各5名様にプレゼント! ファルコムさんありがとう! ハガキのウラに、郵便番号、住所、氏名、欲しい商品名、最近のパソコンゲームに感じること(ちゃんと書いてね)を明記の上、下記のとおり先までどうぞ。当選者の発表は、ログイン'94年4号で!

### あて先

〒151-24東京都渋谷区代々木4-33-10  
トーシンビル (株)アスキー  
ログイン編集部『英伝III付録』係





デザイン/Moon Dog Factory

## LOGiN 24号特別付録②

平成5年12月17日発行(毎月2回第1、第3金曜日発行)

第12巻 第24号 通巻182号

Printed in Japan